

第 119 回日展

第 4 科（工芸美術） 特選授賞理由

題名
銀河

作者名
池上 猛

授賞理由
広大な宇宙へのあこがれを思わせる。複雑に銀の光が重なり天空へと伸び煌めき、凜と立つフォルムがより強調された作者渾身の作である。

題名
風に乗って

作者名
太田吉亮

授賞理由
緻密な有線技法が描く曲線は、目に見えぬ風の軌跡、深く澄んだ碧と緑の釉薬が光をはらんで、爽やかに運んでいく。伝統の技で「風」の心地よさを可視化した至高の逸品である。

題名
平和の祈り

作者名
葛井保秀

授賞理由
争いごとのない平和を願い、円盤を天に向かって捧げる様を表現している。様々な表面仕上げにより、金属の美しさを強調した作品である。

題名
律韻－innocent blue－

作者名
近藤 賢

授賞理由
卓抜した轆轤技法から生み出された見事な轆轤目が、心地よい「律韻」を奏でる。大胆な変形造形に「イノセントブルー」の青白磁釉が美しく融け合い、圧倒的な格調の高さと存在感を放つ磁器作品である。

題名
The Walking Brain

作者名
鈴木良一

授賞理由
木目は自然のままだが美しい。手を入れれば荒く乱れが生じる。その木目を組み合わせ、有機的な造型物に仕上げた。「歩く脳」の題の通り、地に着いた足は七本だけ。正に動き出す瞬間を絶妙なバランスで表現し尽した。

題名
それでも・・・

作者名
二宮祐子

授賞理由
染の作品である。朱と黒が印象的な作品で、特に工芸美術にとって大切な素材（染料）自体を意識したシンプルな作品になっている。又、朱色の微妙な色味の違いも好感がもてる秀作である。

題名
宙耀

作者名
舟越一生

授賞理由
風の流れを想起させる形態は、乾漆技法により成形され、銀河の姿は、多彩な螺鈿を用い表現されている。漆黒の鏡面に映り込む光は、静寂の中の時を感じさせる秀作である。

題名
Amida Kuji 2026

作者名
堀内晴美

授賞理由
作者のモチーフに対する愛情と、機知にとんだアミダクジの線のおもしろさ。春の花苗選びのときめきと、花々の香りまで伝わってくる画面構想が、見るものを引きつけるローケツ染の作品である。

題名
芽生え

作者名
森 賢一

授賞理由
月から注ぐ光が双葉の芽生えを育む姿を、緻密な手法で描く。木目の様々な表情や変化する色調を生かし、螺鈿まで駆使した圧倒的な仕事量である。星の運行や生命の営みといった宇宙観まで表現されている。

題名
黒瓷「環層」

作者名
森田高正

授賞理由
形はシンプルであるが、まさに凜とした作品である。形状の変化、焼成の状態、加飾の三味が絶妙に一体化し、土の変容に息吹、生氣感まで感じ得る陶造形の傑作である。